

グリーン・エコー第59回演奏会

カール・ジェンクス

『平和への道程』(2000)

原題には「武装した男: 平和のためのミサ」と記されている。戦史研究家で英国王立兵器博物館館長のガイ・ウィルソンが、人類のたどってきた殺戮の歴史を振り返り、戦争の虚しさや平和の尊さを痛感し、千年祭に向けてジェンクス(英1944-)に委嘱した記念碑的作品である。

15世紀フランス古謡『武装した男』を主題とし、ミサ典礼文に様々な時代と文明の詞を挟みながら、戦争になだれ込んで行く人類の愚かさとその結果招かれる悲劇を描いている。ジェンクスは、この曲をコソボ紛争の犠牲者に捧げている。

テキストには、キリスト教の典礼文のみならずイスラム教の信仰告白「シャハーダ」や旧約聖書の『詩篇』、ヒンズー教の聖典『マハーバータ』、原爆の惨状を訴えた峠三吉の詩などが選ばれ、人類の希求する安息と悔やむべき所業が多面的に描かれている。キプリング、ドライデン、スイフトといったイギリスの詩人たちの詩句に加え、委嘱者ガイ・ウィルソンが、戦争で亡くなった友人に捧げた哀悼詩『いまや銃声はやんだ』も含まれている。

「ミサ曲」とはいえキリスト教、イスラム教、ヒンズー教の聖典を引用し、英語、ラテン語、フランス語、アラビア語のほか日本語とサンスクリット語の英訳が使われている。全13章に及び変化に富んだ楽章構成は、宗教や政治的信条における互いの違いを認めながら平和裏に共存していく人類の道を探りたいという切実な思いから生まれたものである。しかし、様々な世界で懸命に生きている民衆に向け、親しみやすい旋律による簡潔な音楽で呼びかけようとするジェンクスの創作スタイルは魅力的である。

終曲は「神は全ての涙をぬぐい取り、もはや死も苦しみもない」という黙示録の一節で締めくくられ、恒久的平和への願いが伝えられる。しかし、安寧の日々を求めるがゆえに人類は計り知れない犠牲を払ってきた。その矛盾は誰の目にも明らかであり、その過程はあまりに長く険しい。そうした意図を汲んで『平和への道程』という邦題が付いている。

レナード・バーンスタイン

『チチェスター詩篇』(1965)

イギリス南部にあるチチェスター大聖堂からの委嘱を受けてバーンスタイン(米1918-90)が作曲したオーケストラ付き合唱作品。ヘブライ語で書かれたテキストは、旧約聖書の『詩篇』から作曲者自身が自由に引用したもので、世界の不条理な現状に対する辛辣な批判と平和への切実な思いが込められている。

『詩篇』の多くを綴ったとされるユダヤ王ダヴィデの言葉をボーイ・ソプラノが美しく歌い上げる。その声を「なぜ諸国の王たちは諍いを続けるのか!」と憤る合唱がかき消す。こうした場面は、ミュージカルを見ているような臨場感を感じさせる。全曲は「兄弟たちが一つになって平和に暮らすことはなんと素晴らしいことか」というア・カペラ合唱で締めくくられている。それは作曲者がベルリンの壁崩壊を記念して指揮したベートーヴェン『第九交響曲』の精神にも通じるものである。

12音技法を捨て、調性音楽でわかりやすく心情を吐露するバーンスタイン独特のスタイルから躍動的なリズムと美しい旋律が生まれ出され、聴く者の心を鼓舞し、浄化する。ここには6年後に生まれる代表作『MASS』の萌芽を見て取ることができる。

サミュエル・バーバー

『弦楽のためのアダージョ』(1937)

バーバー(米1910-81)は、ガーシュインとバーンスタインの間を埋めるアメリカの作曲家で、前衛的な実験音楽に背を向け、豊かで美しい旋律を生み出したことから大衆の支持を得ている。

『アダージョ』は、弦楽四重奏曲の緩徐楽章を弦楽合奏用に編曲したロマンチックな楽曲で、合唱用にアレンジされた『アニュス・デイ』(1967)としても有名である。ケネディ大統領の葬儀やアメリカ同時多発テロの慰霊祭など様々な追悼式で演奏されることが多いため、葬送の音楽と受け止められることがあるが、作曲者にその意図はなかった。しかし、すすり泣くような旋律が力強く立ち上がっていく様子は、確かに傷ついた人の心を癒し、励ましてくれる。



photo by Y. Shimori Kurosawa

Conductor

川瀬 賢太郎

KAWASE, Kentaro

現在、名古屋フィルハーモニー交響楽団 指揮者。八王子ユース弦楽アンサンブル音楽監督。2014年4月より神奈川フィルハーモニー管弦楽団常任指揮者に就任。三重県いなべ市親善大使。2015年「渡邊暁雄音楽基金」音楽賞受賞、第64回神奈川文化賞未来賞を受賞。2016年第14回 齋藤秀雄メモリアル基金賞、第26回「出光音楽賞」、横浜文化賞 文化・芸術奨励賞を受賞。



Soprano 安藤 るり

ANDO, Ruri

名古屋市立菊里高校音楽科を経て、京都市立芸術大学卒業。同大学院修了。卒業、修了に際し音楽学部賞、京都音楽協会賞、大学院賞を受賞。ウィーン国立音楽大学大学院修了。ドヴォルザーク国際声楽コンクールファイナリスト及び特別賞。第4回Vissi D'Arte国際オペラコンクール第3位(1位なし)及びロシア大使館文化賞。これまで「魔笛」夜の女王、「アリアダンテ」ダリダなどに出演。2012年、ザクセン州立ブラウンシュヴァイク歌劇場と契約、ストラヴィンスキー「ナイチンゲール」タイトルロール、ラヴェル「子どもと魔法」火、お姫様、ナイチンゲールに出演。ウィーン在住。



Mezzo-soprano 波多野 睦美

HATANANO, Mutsumi

英国トリニティ音楽大学声楽専攻科修了。シェイクスピア時代のイギリスのリュートソングでデビュー。ヘンデル「メサイア」、バッハ「マタイ受難曲」などのソリストとして多くのバロックオーケストラと共演し、国内外で多くのコンサート、音楽祭に出演、海外でも高い評価を得る。近現代歌曲にも積極的に取り組み、作曲家からの厚い信頼を得て、間宮芳生作品のアメリカでの世界初演、水戸芸術館「高橋悠治の肖像」、サントリーホール「作曲家の個展: 権代敦彦」などに出演。モンテヴェルディ、パーセル、モーツァルト他のオペラでも深い表現力で注目される。NHK「ニューイヤーパー」名曲アルバム等、放送出演も多い。「イタリア歌曲集」他多くのCD作品を発表。



Tenor 平尾 憲嗣

HIRAO, Noritsugu

国立音楽大学卒業、同大学院修了。日本オペラ振興会歌手育成部第21期生修了。2002年「第4回オペラティックバトル」第1位。05年藤原歌劇団「ラ・トラヴィアータ」ガストンでデビュー。これまで「リゴレット」マントヴァ公爵、「タンホイザー」ハインリッヒ、「蝶々夫人」ピンカーン等出演。若手テノールの逸材として注目され、文化庁海外芸術家研究員として一年間イタリアのボローニャで研鑽をつみ、帰国後は東海地方を拠点として、オペラやコンサート等の演奏活動を行っている。岡崎女子短期大学准教授。名古屋音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団員。



Baritone 近野 賢一

KONNO, Kenichi

新潟大学教育人間科学部を経て、京都市立芸術大学大学院修了。フライブルク音楽大学修了。ミュンヘン音楽大学大学院修了。第17回ケイストゥット・パツェヴィッチ記念国際室内楽コンクール第3位、第16回ブラームスコンクール入選。国内外にて「詩人の恋」「美しい水車屋の娘」「冬の旅」などドイツ歌曲リサイタルを積極的にに行い、オペラでは「ディドとエneas」「ペレアスとメリザンド」ゴロー、「フィガロの結婚」アルマヴィエヴァ伯爵等を演じる。岐阜大学助教、名古屋音楽大学非常勤講師。